

マドリーム通信

在スペイン日本国大使館付属

マドリッド日本人学校

文責 久保 俊博

平成28年10月3日 No. 7

「読書の秋…！」

久保俊博

本当に暑く、厳しい夏がようやく終わりをとげ、ちょっぴり涼しい季節に変わりをはじめました。校舎内にある草木も、勢いを取り戻したかのようです。



保護者の皆さんは、お子さんを授かった時、元気に育ってくれればいいと願っただけだったのに、その子が成長するにつれて、他の子供といろいろな比較をして、勉強は人並み以上に、スポーツも得意になってほしい…と思ったことはありませんか？

勉強はともかく、読書をする習慣はつけさせたいと考えている保護者の皆さんは多いと思います。でも、本を読まそうとして、逆に子供たちに反発された経験はないでしょうか？ 詩人のねじめ正一さんは、子供の本の敵として3つを挙げています。

それは、「常識」「理屈」「成熟」。ねじめさんによると、「いい子」に育てようとする大人はこの3つが大好きだとか（かくいう私もその部類に、どっぷり浸かっていると思います）。読ませたい本には、この3つのどれかが入っていると指摘します。確かに、この内容が書かれてある本を、子供たちには読ませたいと思ってしまいますが、ねじめさんのこの話を聞いて、実に痛いところを突かれたなという率直な感想を持ちました。

「常識の行き着くところは硬直です。理屈の行き着くところは妥協です。成熟の行き着くところは凡庸です。私は、たましいのやわらかい子どもに、この三つだけは与えたくない、心底思っています」>（「ぼくらの言葉塾」）と、ねじめさんのご指摘は厳しいです。

本が好きな子どもに育ててほしいと願っているのに、親が理屈や常識を押し付け、逆に遠ざけてしまっているとしたら…、こんな悲しいことはありません。

10月末からは、本校でも読書週間が始まります。本校の和書の冊数は、そう多くはありませんが、それでも今年度は80さつ以上注文しています（残念ながらまだ届いてははませんが…）。

過ごしやすい季節。読書を通して、知的好奇心をますます増やしてほしいと思っています。



10月の行事予定



1	土	
2	日	
3	月	全校集会、中学部中間テスト
4	火	中学部中間テスト
5	水	給食
6	木	発育測定
7	金	部活動なし
8	土	
9	日	第2回英語検定
10	月	
11	火	
12	水	イスパニアデー
13	木	
14	金	部活動なし
15	土	
16	日	文化祭
17	月	振替休業日
18	火	
19	水	給食
20	木	ペース走オリエンテーション
21	金	部活動
22	土	
23	日	
24	月	読書週間（～11/4）
25	火	ペース走2
26	水	給食
27	木	
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	全校集会



10月の生活目標

自分の気持ちを正しく伝えよう。



家族参観目のソフトバレーボール結果

9月18日、授業参観後、体育館で行われたソフトバレーボールの結果、小学校低学年では、Dチーム（〇〇〇〇くん、〇〇〇〇さん）、中学年から高学年では、Cチーム（〇〇〇〇くん、〇〇〇〇さん）が優勝しました。おめでとうございます。

保護者の皆様、参加お疲れ様でした。大きな怪我もなく終え、本当に良かったと思います。

第2回 避難訓練終了

9月27日、不審者が正門から侵入したという設定で、今年度2回目の避難訓練が行われました。当日は、大使館より杉村様、現地警察署より2名の警察の方にもお越しいただき、避難の様子を見ていただきました。

杉村様からは3つの大切なこと（1、しゃがむ 2、逃げる 3、無理なら隠れる）を教えていただきました。

その後、視聴覚室に行き、警察の方からドロップアウト（犯人から見られないように身を隠す…）のことを実際に教えていただきました。

今回、初めてグランド横にある避難口を利用して外に避難しましたが、これからもこのドアを使うことがないように…と心の中で密かに祈っていました。



文化祭にむけて

10月16日の文化祭にむけて、文化祭実行委員会が中心となって、動き始めました。

文化祭実行委員会の記録を見ると、第4回の会議では総務係から開閉開式の内容の確認、ステージ看板製作について。全校発表係から練習実施計画について。幕間係から幕間オーディションを実施したことなどが書かれてありました。

第5回では、全校発表係から各パートの音が聞こえるように工夫すること。幕間係から出演者のアナウンス原稿を考えていくことなどが話されています。

これらの内容は、ホールのボードに貼られています。各係の動きが分かり、大変良い取り組みだと思います。

新しいものを創り出すことは、大変な労力を必要としますが、それをつくり終えた時の感動や満足感は、中学校を卒業して40年以上経った今でも鮮明に私の心に残っています。学級担任の先生や仲間との意見の違いから、投げ出したくなったときもありましたが、そういう苦労を経験したからこそ、今があるように思います。

本校の先生方は、児童生徒たちが困ったときには、真剣に話を聞いてくれますし、良い方向に行くように助言してくれると思います。

あと2週間ですが、良かったと思えるように頑張っていきたいと思います。

“教師のつぶやき”

「一枚の絵から感じたこと」

龍 求



日本人学校のホールには一枚の大きなタイル絵があります。上の写真がそれです。スペイン南部、アンダルシア地方のグラナダにある「アルハンブラ宮殿」が描かれた絵です。

本校では毎日、下校前に、全員が集まって“ホールの会”を行うことから、私にとっては見る機会が多い絵であり、スペインで暮らす間に、一度は本物のアルハンブラ宮殿を訪れてみたい…、と思わせる絵となっていました。

幸い、この夏に、グラナダ、そして、アルハンブラ宮殿を訪れる機会に恵まれました。

真ん中の写真は、アルハンブラ宮殿全体を見渡すことができる展望台から撮ったものです。ホールにある絵を通して得た“見慣れた景色”が広がり、「同じだ〜。」と感動を覚えたほどです。どことなく、ホールにある絵を描いた気分になりました。

展望台を訪れた翌日、今度は、実際に、アルハンブラ宮殿内を見学しました。下の写真は、宮殿内の塔の上から撮ったものです。目の前には、起伏のある広々とした土地の斜面一面に、日差しが強いアンダルシア地方特有の白壁の家々がぎっしりと建ち並んでいました。想像すらしていなかった美しくて圧倒される景色が目の前に広がり、前日とはまた違う強い感動を覚えました。

“いつも見ているもの”と“いつも見ているものから見えるもの”。ホールにある一枚の絵を通して、今回は、物事を180度向こうの反対位置や別の視点から眺めることで分かる物事の深さや面白さを味わったところです。

今日も本校ではホールの会が行われます。絵の中のアルハンブラ宮殿をいつも眺めながらマド日生の下校を見届け、また、絵の中のアルハンブラ宮殿は、私たちマド日を見守ってくれているような気がします。

